

えぐね

「えぐね」は、日本三大散居村の地、胆沢扇状地の屋敷の北西側に木を森のように植えて、冬の季節風から屋敷を守る防風林です。快適な住環境を形づくり、日本の原風景を代表する景観を生み出しています。本校が胆沢の地や人々にとってなくてはならない「えぐね」のような存在であり続けたいと願い、校報の名前にしています。〈学校HP <https://isawachu.edumap.jp>〉

2学期を終えるにあたり

終業式で話した内容です。……始業式では、2学期には様々な場面での発表や表現を意識した行動を行ってほしいこと、学校公開研究会があることについて話しました。発表や表現の回数は以前より増えましたか、うまく伝える工夫はしてきたでしょうか。研究会では各校の先生方から、「立派になった様子にたくましさを感じている」「前向きな姿勢があらこちらで見られた」「授業にしっかり向き合っていることがすばらしい」などのお話をたくさんうかがっています。それぞれの学級のあたたかい雰囲気や学びに向かう様子から、胆沢中の良い点を評価してくださったものと思います。学校全体としての雰囲気は、とてもよいのだということを中心に、一人ひとりの発表や表現について、これからも意識してほしいです。

避難経路の確認

暖房機器の利用が始まり、注意が必要な場面が増える時期です。正しい知識を身に付け、万

が一の場合の安全確保ができるようにしておきたいと思います。今回は火災想定の実施しました。冬季は凍結、積雪、寒さも含め判断できるようであってほしいと願っています。



合同トレーニング

放課後の限られた時間を有効活用する取組です。体育で行っているメニューや筋トレを1・2年生全員が集まって実施しています。

子どもたちの元気と体力をアップ！60（ロクマル）運動に取り組んでいます！

体の元気アップ、心の元気アップ、仲よしアップ、毎日の楽しさアップ、体育の授業 休み時間の運動部活動、徒歩通学 散歩 階段の昇降、ジョギング サイクリング 体操などの軽運動、運動(遊び)やスポーツに1日 ※生活活動を含む、鬼ごっこ なわとび かけっこ遊び、親子で運動 地域でのスポーツ活動、そうじやお手伝いなどの生活活動

以上取り組みましょう！

保護者の皆様へ
若手県教育委員会では、児童生徒の体力向上を目指し、児童生徒が1日に合わせて60分以上運動(遊び)やスポーツに親しみ、運動習慣を身に付けることができるように、「希望型いわて 元気・体力アップ60(ロクマル)運動」をキックオフし、学校・家庭・地域が連携した環境づくりに取り組んでいます。
1日60分の運動習慣は、体力向上だけでなく、心の発達、社会性の発達にもつながっています。課外や幼児期・小学生・中学生においても、1日60分以上の運動が奨励されています。
保護者の皆様も一緒に運動するなど、家庭での60運動にご協力をお願いします。
※裏面の「チャレンジカード」をご活用下さい。
若手県教育委員会事務局保健体育課

は併せて、組み合わせて60分以上を目指しましょう。

(県教委は1日60分の運動を奨励しています)

学習コンクール

何回かのプレテストと学びあい期間を踏まえて実施しています。今回は、数学に取り組みました。どの学級も満点者が多く、合格率も高くなりました。学習コンクールは、それぞれが学習方法を身に着けることや学習習慣の確立にもつながるものだと思っています。

年末年始と冬休み

期末面談へのご協力に感謝申し上げます。2学期の振り返りを通じて、冬休みから3学期に向けての、それぞれのめあてや目標の設定につながったものと思っています。

冬休みは年末年始と重なります。各家庭での家族と過ごす時間を大切にしてほしいと願っています。その時間は、思い出とともに教科書には書いていない人生(生き方)を学ぶことにもつながるものだと思っています。

生徒指導の視点から

市内各学校と関係機関による小中高校生の安全にかかわる会議がありました。その会議で紹介された事柄を二つお伝えします。

- ① 全国的に中学生の不適応・不登校の増加が報告されている。理由の上位には、無気力・不安、友人関係があげられている。

- ② 中学生のSNS利用に伴う生活習慣の乱れや情報モラル(ネット安全)につながる問題発生が続いている。

冬休みのきまりとして、市内共通の約束事があります。ルールを守ることは安全を守ることにつながります。冬休み期間の様子についてもこれまで通り目をかけていただきたいと思います。お気づきのことは、その都度お知らせくださるようお願いいたします。

こども調査③「居場所」

次の場所は、あなた(10~14歳)にとって、ほっとできる・安心できる場所になっていますか

	そう思う(積極肯定)
自分の部屋	64.7%
家庭	68.6%
学校	36.7%
地域施設(図書館、公園等)	29.1%
インターネット空間	35.1%

居場所として、自分の部屋や家庭が高い数値であり、今も昔も変わらず、安心できる場所になっているのだと思います。

近年、居場所のなさを問題視する指摘が続いています。日本では「居場所=人間関係」と捉える人が多いようです。具体的空間だけでなく、そこにある人間関係や役割が居心地の良さに関係することも確かなことです。

安全で安心できる場所、落ち着く場所を複数もてるようになることも必要だと思いました。